

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 骨・免疫・がん関連に基づく、がん骨転移の病態理解と制御
2. 研究代表者： 岡本 一男（東京大学 大学院医学系研究科 特任准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、骨転移誘導に関わる骨環境形成、及び骨構成細胞、がん細胞、免疫細胞の三者関係の理解に基づいた骨転移巣の腫瘍微小環境を解明し、がん骨転移の予防・治療法を開発することを目的としている。

フェーズ1では、骨転移における RANKL の機構解明、マクロファージが T 細胞活性化抑制と腫瘍進展を促すことなど、様々な骨転移機構を明らかにした。これまでの骨免疫学の研究経験も生かして成果を上げている。フェーズ2の研究計画では、骨組織微小環境の形成に関わる因子群の同定と分子機序の解明を予定しており、骨構成細胞による新規の転移制御機構や、造血障害と転移との関連について、独自性・独創性の高い研究展開を期待する。

以上